

2007年を振り返って

平成19年も残すところあと半月となりました。合併3年目の今年は、行政組織の合理化と事務事業の効率化を旨とする行財政改革と並行しながら、当面の重要施策と位置づけられる事業が展開されてきました。全市規模で推進された新しい営農組織体の結成をはじめ、市の観光宣伝の拠点となる「観光案内所」の新設、誘致企業や大型商業施設等の進出・立地の促進など、これからの産業振興の先導役となる事業の進展を見ました。また、「北秋田市民病院」の本体建設工事がいよいよ着手され、21年秋の開院に弾みがつきましたが、一方で、阿仁病院は常勤医師の減員で入院病床の休床という事態に陥ってしまいました。

今年は特に、これらの事業のほかに脳裏に刻まれるスポーツイベントと甚大な天災を経験することになりました。「秋田わか杉国体」の開催から、多くの市民の参画による大きな感動を得た一方、未曾有の豪雨災害からは、改めて自然の怖さより強固な防災活動の重要性を思い知らされることとなりました。

1年間の様々な市政と市民の活動について、広報掲載の記事を中心に振り返ってみました。

わか杉国体、本市で4競技開催

昭和36年以来の秋田県での開催となった第62回国民体育大会(秋田わか杉国体)は、9月29日から10月9日までの間、秋田県下19市町で開催され、秋田県は初の天皇杯・皇后杯の二つを獲得しました。

本市では、9月19日に「阿仁マタギの火」の採火を行った後、「成年女子9人制バレーボール」、「フェンシング」、「山岳(縦走・クライミング)」、「アーチェリー」の4種目の熱戦が繰

り広げられました。民泊の受入れや大会ボランティアなどの多くの市民の参画と協力が支えられて、成功裡に終了することができました。

大勢の市民らの声援を受けて秋田県チームの活躍も光りました。山岳縦走競技の成年男女の優勝と少年男子の準優勝に続き、成年女子の9人制バレーボール、フェンシング少年男子フルール、同成年女子フルールもそれぞれ制覇しました。

特に、北秋田市勢が出場した山岳縦走競技の成年・少年女子、フェン

シング少年男子の活躍は、市民に大きな感動を与えました。

また、本大会に先駆けて2月に鹿角市で行われた冬季大会では、本市出身の小林範仁選手と湊祐介選手の2人がノルディック複合競技で優勝、準優勝の成績を収めたほか、少年男子のクロスカントリーと複合競技などで多くの入賞者を出して、天皇杯獲得に大きく貢献しました。



▲少年男子フルール決勝、秋田対神奈川戦(合川体育館でのフェンシング競技)



▲成年女子9人制決勝、秋田対兵庫戦(鷹巣体育館でのバレーボール競技)



▶冬季国体複合競技でデットヒートを繰り広げる湊祐介選手と小林範仁選手(後)



▲巨大ウォールに挑む山岳クライミング競技の選手。(森吉スポーツ公園)



▲ゴール直前での力走(森吉山特設コースでの山岳縦走競技)



▲阿仁吉田・特設競技場で行われたアーチェリー競技

9・17豪雨で甚大な被害

台風11号から変わった低気圧や前線の影響により、9月16日から17日にかけて東北地方に大雨が降り、本市でも17日未明から24時間で降った雨は観測史上最大を記録、阿仁川や米代川流域で河川が氾らんし、浸水や土砂災害、農業災害などの甚大な被害が広がりました。

特に床上浸水などの深刻な被害を受けた森吉地区の前田、大淵集落などでは、泥まみれとなった家の中の清掃作業や、浸水し使えなくなった家財道具、泥などの撤去に1週間以上の日数を費やしました。

各家庭から排出されたごみも膨大な量となり、臨時集積所となった阿仁前田河川敷には電化製品、家具、布団などの家財道具がうずたかく積もり、被害の大きさを見せ付けました。この被害で、県は災害救助法を適用し、本市でも災害総合相談窓口を各支所及び前田出張所、その後災害復旧支援室を森吉支所内に設置して、今なおその対応にあたっています。

なお、11月21日現在での被害状況は、死者、行方不明者がそれぞれ1名で、住家被害では、全・半壊214棟、床上・床下の浸水178棟などとなっています。農用地では、水田の冠水が2100ha以上にも及び、道路・



氾濫で街路に残された泥とがれきや流木(前田地区)



冠水した鷹巣川井堂川線(合川地区)

橋梁・河川においても合わせて131箇所が被害を受けました。これらの被害額は、公共施設(農林水産、土木等の各施設)で約34億5千万円、農林水産及び商工関連におい

ては、およそ10億7千万円強となっており、国や県の補助金を含めた市の膨大な災害対策予算が組み込まれ、早期の復旧にあたっています。



崩落した105号・新荒瀬橋



避難先で不安な一夜を過ごす市民